

懸命

14日(金)は期末考査最終日でした。

朝学習の時間に各教室を巡ると、机に向かう生徒たちの真剣なオーラを感じることができました。廊下にはみ出している学級もありました。ある生徒は社会のワークを解き、ある生徒は美術のプリントを確認し、またある生徒は音楽の教科書を開いていました。



同じ朝学習の時間なのに、1年生は机に座っているだけで何も取り組まず注意を受ける人が、2年生は机の前後で談笑している人が、3年生は無言で机に向かっている。学年が上がるにつれ、姿が懸命になっていきます。

ところで、右の写真は何か分かりますか？



本校北校舎の隣に生えるビワの木の果実です。用務主事さんが、高枝切りばさみで切り取り、収穫してくださいました。小粒ですが、しっかり甘く熟していました。15年以上前から、この時期に毎年さわやかな甘さを届けてくれています。足元を見ると、たくさんの果実が落ちています。このビワの木は、たくさんの果実をつけて、地面に落としています。果実の周りの果肉を微生物が分解し、種子がむき出しになり乾燥していきます。発芽が抑制される休眠状態を経て、やがて時が来ると、水分を吸収し始め、温度と空気の状態が適切になると発芽を開始します。ビワの木は、次の世代に生命をつなぐと、懸命になっています。



音楽の考査の終わりと期末考査の全日程が終了しました。伸びをしながら「終わったー」と笑顔がこぼれています。解き放たれた表情でした。ところが3年生はというと、

17日(月)の予定 復習確認テスト

1校時 国 2校時 数 3校時 英 4校時 社 5校時 理

なのです。「終わったー」という喜びは おあずけですね。

再び校庭のビワの木に目を向けると、枝にとまる鳥がビワの実を咥えています。動くことのできない植物たちは、鳥たちの力を借りて生育域を広げています。鳥たちは果実を食べ、飛んで行った先で、体内で消化されない種子をフンと共に排出します。植物は鳥たちを賢明に利用しています。

ビワを咥えた鳥と小生の目が合うと、一瞬、くちばしが下向き、すぐさま飛び立ちました。その様子が、「他人の庭のビワを勝手に食べて申し訳ないです!!」のように見えて、一人笑ってしまいました。

わびは 要りません。鳥だって生命をつなぐのに懸命ですから。